

令和5年度（2023年度）地域生涯学習活動実践交流セミナー 事業報告書

○ 事業の概要

1. 事業名

令和5年度（2023年度）地域生涯学習活動実践交流セミナー

2. 開催日時

令和6年（2024年）2月21日（水）9:50～17:00

令和6年（2024年）2月22日（木）9:30～12:00

3. 開催場所

北海道立道民活動センター かでの2・7（札幌市中央区北2条西7丁目）

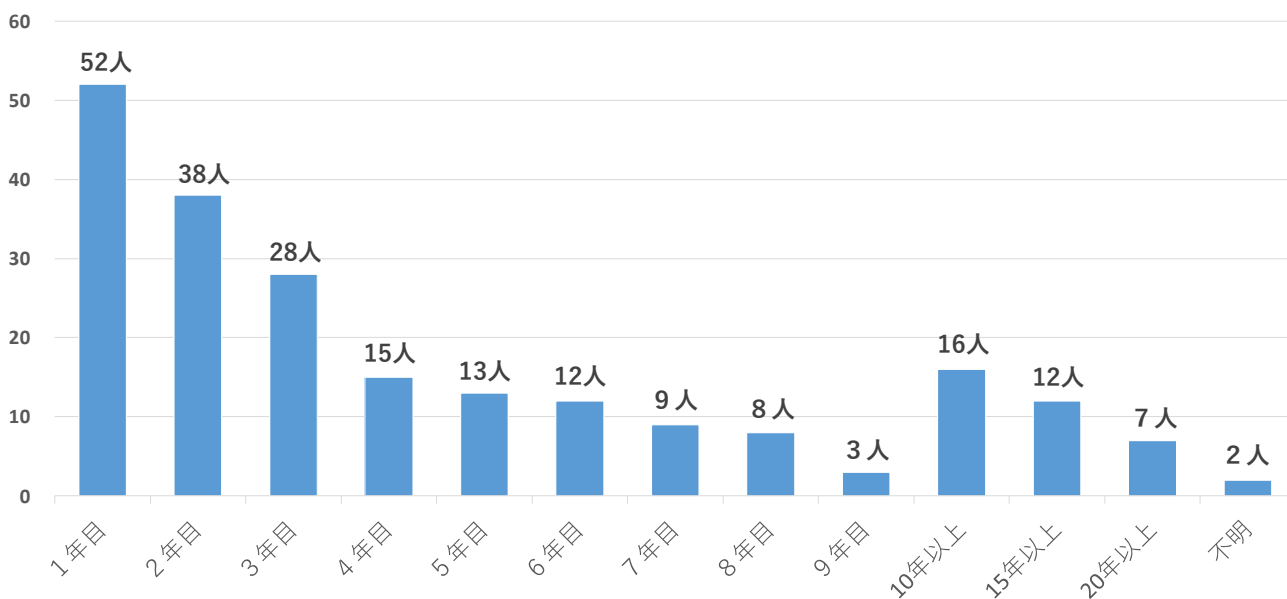
かでのアスビックホール、1030会議室、1040会議室、1060会議室、1070会議室

基調講演のみオンライン配信（Zoom）

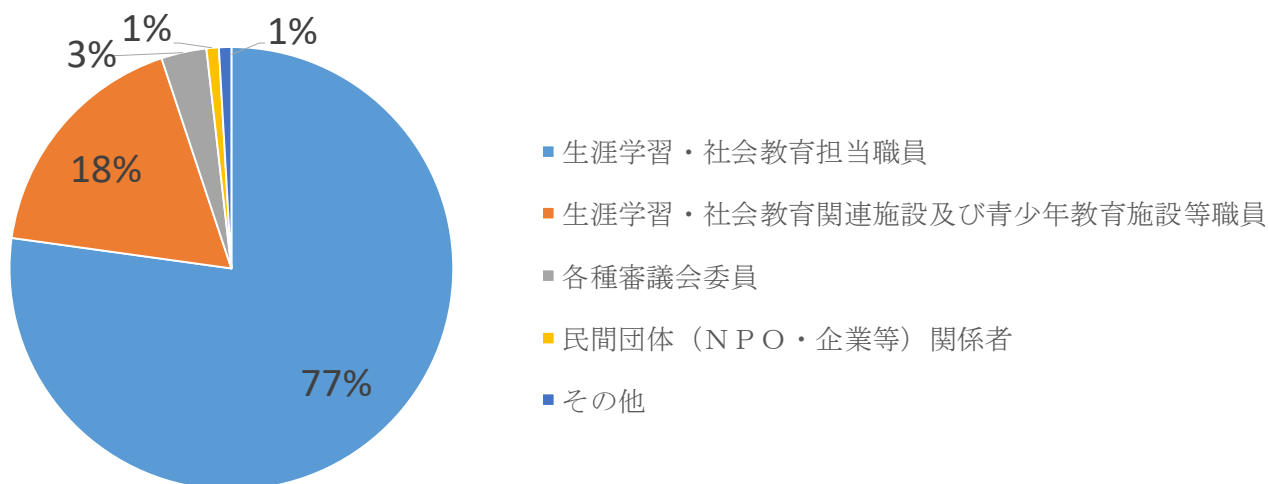
4. 参加人数

215名参加（うちオンライン46名） 125市町村

5. 参加者の社会教育、生涯学習に携わっている経験年数



6. 参加区分



7. プログラム

1 日 目	9:50～10:10	開会・説明	開会挨拶 / オリエンテーション / テーマ説明
	10:20～12:10	事例発表①～③	14 管内の事例発表
	12:10～13:20	休憩	
	13:20～13:50	事例発表④	14 管内の事例発表
	14:00～15:30	基調講演	「開いて・シェアする」ことで生まれる未来のアタリマエ 講師：株式会社リクルート人事HITOLABエグゼクティブ 福田 竹志 氏
	15:45～17:00	研究協議①	研究テーマ「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」を熟思し、既存事業や現在の取組に係る改善方法について考えることにより、各地域における取組に生かす。
2 日 目	9:30～11:00	研究協議②	研究テーマ「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」を熟思し、既存事業や現在の取組に係る改善方法について考えることにより、各地域における取組に生かす。
	11:10～11:45	全体交流	研究協議・意見交流での気づき
	11:45～12:00	閉会	閉会挨拶

(1) 事例発表 10:20～13:50

	道北ブロック 1030 会議室	道東ブロック 1040 会議室	道南ブロック 1070 会議室	道央ブロック 1060 研修室
10:20 ～10:50	宗谷管内 「新規事業で来場者 2,000人超！ポストコ ロナにおける稚内市の 社会教育」 稚内市教育委員会 野口 碧月姫	釧路管内 「釧路町大好き子を育 成する大人のふるさと 教育」 釧路町教育委員会 長崎 詩野	渡島管内 「渡島管内の取り組み」 七飯町教育委員会 高瀬 佳大	空知管内 「高齢者の人材活用から 見た異世代交流の学 び」 秩父別町教育委員会 渡部 泰文
11:00 ～11:30	上川管内 「オンラインによる持続 可能な社会」 南富良野町教育委員会 早坂 龍幸	十勝管内 「十勝の事例から持続可 能な事業運営を考え る」 清水町教育委員会 太田 希 上士幌町教育委員会 高橋 克磨	檜山管内 「北海道教育大学函館校 実習受入事業」 せたな町教育委員会 東 優希	
11:40 ～12:10	留萌管内 「自分のまちの社会教育 事業をみつめなおす～ 社会教育とはそもそも どんなものか～」 増毛町教育委員会 高橋 徳	オホーツク管内 「社会教育行政職員の役 割～『法』と私たちの 実践」 北見市教育委員会 松坂 すずの	日高管内 「日高管内青少年体験活 動推進事業「ひだか未 来塾」の実践」 新ひだか町教育委員会 山口 理絵	石狩管内 「学びから市民リーダー へ みんなで、ひと・ まちづくり委員会の実 践」 千歳市教育委員会 坪田 佳之
13:20 ～13:50		根室管内 「PPPを含めた施設建設 に係る財源検討につい て/ジュニアリーダー 活動を含めた地域との 関係性について」 別海町教育委員会 上杉 大洋	胆振管内 「教えて！あなたの「な んかいい感じ」～地域 の方々のWell-Being に係る調査研究」 壮瞥町教育委員会 前川 祐弥	後志管内 「地域学校協働活動にお ける社会教育のあり方 ～地域の可能性を引き 出すコミュニティ・ス クールに向けて～」 島牧村教育委員会 奈良 周弥

○実施状況

- ・研究テーマに沿った実践について、全14管内が発表した。
- ・会場設営から進行・記録も含め、各管内で運営・実施した。
- ・各事例発表ともに、多くの参加者が発表を聞き、積極的に質問する様子が見られた。

<空知管内>秩父別町

発表タイトル	高齢者の人材活用から見た異世代交流の学び ～社会教育による持続可能な社会の実現のために～
発表の概要	世代間交流や地域貢献に資する体制づくりを目的に高齢者の広範なボランティア活動の支援について
実施のポイント	・高齢者を支えられる人としてではなく、多様な知識・知恵を持った社会の担い手として捉えるとともに、ねらいを共有する。

<石狩管内>千歳市

発表タイトル	学びから市民リーダーへ みんなで、ひと・まちづくり委員会の実践
発表の概要	「みんなで、ひと・まちづくり委員会」の取組と今後の展望、「ちとせを元気に応援隊養成講座」について
実施のポイント	・市民リーダー「ちとせを元気に応援隊」を自走できる組織にアップデートさせていく。 ・若手委員の加入促進や新規事業の企画をとおり、「まちづくり」を体感できる場にしていく。

<後志管内>島牧村

発表タイトル	地域学校協働活動における社会教育のあり方 ～地域の可能性を引き出すコミュニティ・スクールに向けて～
発表の概要	管内の研究テーマ、地学協働について、地学協働の3つのポイント、持続可能なコミュニティ・スクールに向けて
実施のポイント	・学校の支援のための地学協働ではなく、学校と地域の双方が発展することを目的としている。 ・新たな行事やイベントを増やすのではなく、現行の取組への付加価値について考える。

<胆振管内>壮瞥町

発表タイトル	教えて！あなたの「なんかいい感じ」 ～地域の方々のWell-Beingに係る調査研究
発表の概要	各市町でのアンケート調査・分析
実施のポイント	・持続可能な社会とは「なんかいい感じ」な社会であると捉え、「なんかいい感じ」な社会を作るために社会教育がすべきことを考える。

<日高管内>新ひだか町

発表タイトル	日高管内青少年体験活動推進事業 ひだか未来塾
発表の概要	「持続可能な世界を創るために、わたしたちができること～スポーツとSDGs 障がい者スポーツを知ろう～」をテーマとしたひだか未来塾の取組について
実施のポイント	・北海道教育委員会が推進する「障がい者の生涯学習理解促進キャラバン隊」事業の協力を得ての講師派遣・情報提供等を行う。 ・障がい者理解と同時に生涯スポーツを推進していく。

<渡島管内>七飯町

発表タイトル	アフターコロナと社会教育
発表の概要	管内テーマの設定と渡島社会教育主事会の取組について（アフターコロナの体験活動、職員のスキルアップ研修）
実施のポイント	・コロナ禍でも実施されていた活動の定員数を拡大し、新たな活動を追加する。 ・「好き・得意」を学びにつなげる。 ・市町村の事業を見学する。

<檜山管内>せたな町

発表タイトル	地域住民との新しいつながりを見出すための社会教育システムの構築に向けて
発表の概要	北海道教育大学函館校実習受入事業の事業報告（大学生による町の教育計画の立案・実施、まちづくり＝人づくり）
実施のポイント	・人と人のつながり、学び合いで幸福な社会を実現させる。

<上川管内>南富良野町

発表タイトル	オンラインによる持続可能な社会
発表の概要	コロナ禍でも人のつながりを途切れさせないためのオンライン活動の推進について（クイズグランプリの実施、eスポーツについての研修）
実施のポイント	・高齢者大学でのオンライン講座で、デジタルデバイド解消させる。 ・eスポーツに焦点を当て、多世代のつながりを構築する。

<留萌管内>増毛町

発表タイトル	管内合同事業実施のための土台づくり、また、そのための人材育成
発表の概要	社会教育の基礎的理解を図る研修会の実施による各市町村社会教育事業のブラッシュアップと次年度以降の管内合同事業に向けた計画づくりについて
実施のポイント	・はじめに講師を招いて社会教育の基礎を学習する。 ・管内合同事業の前に各市町村の事業をブラッシュアップさせる。 ・各市町村のノウハウを持ち寄り、管内合同事業を計画する。

<宗谷管内>稚内市

発表タイトル	新規事業で来場者 2000 人超！ポストコロナにおける稚内市の社会教育
発表の概要	まなびふれあいフェスタの概要、クリスマスフェスティバル実施の背景、来場者 2000 人超を達成したわけ、次年度に向けて
実施のポイント	・これまでの事業の課題や解決策をみんなで出し合い、住民のニーズを踏まえアップデートさせる。 ・各関係団体、地元企業など（計 46 団体）様々な人と連携することで内容の充実を図る。 ・参加増へつながる SNS を活用した新しい周知方法を活用する。

<オホーツク管内>北見市

発表タイトル	社会教育行政職員の役割～「法」と私たちの実践～
発表の概要	日々私たちが触れる「法」の学び直しを通して、社会教育事業の在り方と職員のスキルアップを図る取組について
実施のポイント	・職員が入れ替わっても問題ないように、法から抽出した評価軸「環境醸成」「学習機会の提供」「コミュニティづくり」を基とした事業の構成と行政職員の関わりについての資料作りをする。

<十勝管内>清水町

発表タイトル	十勝の事例から持続可能な事業運営を考える 西部十勝野外活動体験研修事業「クマゲラの村キッズキャンプ」
発表の概要	十勝 3 町（清水町、新得町、芽室町）の小学 3 年生から高校 3 年生までを対象としたジュニアリーダー育成事業から考える持続可能な事業運営について
実施のポイント	・上級生が手本となるよう小中高を合同で実施する。また、経験の浅い職員が担当しても伝統が受け継がれるように、過去の参加者が「アシスト」として事業にかかわる。

<釧路管内>釧路町

発表タイトル	釧路町大好きっ子を育成する大人のふるさと教育
発表の概要	ふるさとを知りふるさとを愛する人の育成を目的とした大人の学びにフォーカスした学習活動について
実施のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへのふるさと教育の前に大人が学習する。 「子どものため」をきっかけにして、多種多様な人への参画を呼びかける。

<根室管内>別海町

発表タイトル	PPP を含めた公共施設建設に係る財源検討について
発表の概要	生涯学習センター新設にあたってのPPPを活用と、中高生のジュニアリーダー組織の立ち上げから取組について ※PPPとは行政（Public）が行う各種行政サービスを、行政と民間（private）が連携（partnership）し、民間の持つ多種多様なノウハウ・技術を活用すること
実施のポイント	<ul style="list-style-type: none"> PPPにより行政側も事業者側もWin-Winとなり、中長期にわたって好影響となる。 栄養の偏った自作弁当から食育のテーマを見つけ、地元食材を使った弁当の開発と販売を行うなど、学習成果を活用する。

(2) 基調講演 14:00~15:30

「開いて・シェアする」ことで生まれる未来のアタリマエ

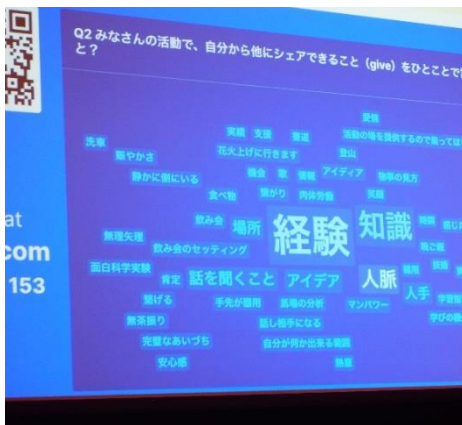
講師：株式会社リクルート人事HITOLAB（ヒトラボ） エグゼクティブ 福田 竹志 氏

人口減少や少子高齢化の進行、情報技術やグローバル化の進展などにより、人々の価値観や生活スタイルが大きく変わる中、「既存のものを分解し、内外で共有することで未来のアタリマエを創る」人材や組織が求められている。

「HITOLAB（ヒトラボ）」は、株式会社リクルートが2019年4月に立ち上げ、自治体や学校・省庁・企業と「人と組織」に関わるプロジェクトを行うR&D組織。人と組織、会社と社会の関係性を新たに捉え直し、発信・提供することをミッションとする福田氏から思考のアップデートや様々なノウハウを持つ他の組織や民間との連携方法について学んだ。



<研究テーマに係る基調講演のポイント>



○社会の変化に応じた事業企画や提案の必要性

人生モデルは、「3ステージモデル（同世代で一斉行進の人生）」から「マルチ・ステージモデル（年齢とステージは関係なし。人生の多様化）」へと変化している。「生涯学習」や「社会教育」の重要性が一層増していると認識しながら、試行錯誤や好事例をみんなで「開いて・シェア」し、知恵を集合知にすることで事業や取組の質を高める。

○役割のアップデート

既存のものを分解して、目的に沿って組み直すアップデートを行うことで、新たな気付きや取組が生まれる。役割をアップデートすることで軽やかな連携が可能となる。ただし、連携の際は何かをお願いしたいのか、明確にすることが大切。

(3) 研究協議 (21日 15:45~17:00、22日 9:30~11:00)

- 進行 1030 会議室 宗谷教育局、上川教育局、留萌教育局
 1040 会議室 十勝教育局、オホーツク教育局、釧路教育局、根室教育局
 1060 会議室 空知教育局、石狩教育局、後志教育局
 1070 会議室 渡島教育局、檜山教育局、日高教育局、胆振教育局



- 研究テーマ「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」を熟思し、既存事業や現在の取組に係る改善方法について考えることにより、各地域における取組へ生かすことをねらいとしたワークを行った。
- グループは人口規模別で構成し、同じ課題や悩みを抱える参加者同士で助言し合い、事業を見直す機会となった。協議の様子や状況については全体会で記録者が発表し、全体に共有した。

(4) 全体会 (22日 11:10～11:45)

進行：中西 めぐみ

(北海道立生涯学習推進センター主査)

発表者 (記録者)

- 関根 智敏 氏 (利尻町教育委員会)
- 中田 希望 氏 (興部町教育委員会)
- 古渡 月衣 氏 (赤井川村教育委員会)
- 樋口 喬士 氏 (今金町教育委員会)



- 持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びについて、研究協議で出てきたことを発表し、それに基づく意見交流が行われた。
- 「地域の可能性を引き出す学び」に繋がるフレーズやキーワード
 - ・高齢者のデジタル化 ・やってみよう学び ・歴代社会教育主事の組織化 ・体験と経験の共有
 - ・大人のふるさと教育 (子どもに教える前に大人が地域を知る必要がある) ・持続可能なつながり
 - ・あたりまえは変わっていく、固定観念を疑う ・決めつけない、変化を続ける
 - ・前例にとらわれない ・人脈のアップデート ・リメイク ・住民の主体性
- 「地域の可能性を引き出す学び」とは
 - ・今あるものを活かしながら新しいつながりを創出する学び
 - ・誰もが参加しやすい学び → 共創、みんなで一緒に、みんなでシェア
 - ・自分の地域を知って還元する学び
 - ・担い手となる若者の意欲をかきたてる学び
- 「地域の可能性を引き出す学び」に繋がる取組を企画・運営する上で大切であると考えること
 - ・時代の変化によるニーズの変化を把握すること
 - ・これまでの事業を廃止したり改革したりするときには、その事業がなぜ始まったのかを考えること
 - ・持続可能な学びのために青年層の参画を促すこと
 - ・「やりたい」を実現させ、「楽しい」を循環させること
 - ・行政の「いいかんじ」を押しつけないこと

(5) 閉会

北海道社会教育主事会協議会会長 増田 仁 (えりも町教育委員会)

各市町村の事例発表は5月の社会教育セミナーで説明のあった研究テーマに基づいたものであった。基調講演は社会教育と違う分野の講師であり新鮮であった。別な分野の話を知ることが、これまで気づけなかったことへの気づきが生まれヒントになる。

生涯学習とは人が意識して学び続けるプロセス。情報、知識を更新し続け社会に貢献する力を身につけることができ、地域発展には必要不可欠である。

それぞれの地域に戻ってから得た知識、スキル、人脈を生かしていただければ、本セミナーが意義のあるものになる。



○ 成果と課題

○参加者アンケートをもとに、成果と課題を整理する。(アンケート記述については抜粋)

参加者アンケート回収率 66.9% (回答数 113/会場参加者数 169名)
参加者アンケート実施方法 アンケート質問紙への記入

1. セミナー全体の満足度

肯定的評価

全体 100% プログラム 95.6% 事例発表 100% 基調講演 99.1% 研究協議 91.2%

- 自分のもっていなかった視点が得られたので非常によかった。
- 課題を感じていることに対して、事例を聞くことで参考にしながら町の取組に生かせそうだと感じた。
- 同じ状況の市町村が多く、実感をもてる内容だった。
- 事例、講演、ワークのバランスがちょうどよかった。
- 対面で行う意義はとてもある。
- ヒントになりそうなことや、新しいアイデアが浮かんだ。
- インプット(講演)とアウトプット(協議)があり、学びが深まった。
- 各地域での実践例を知ることができ、様々な課題を解決するための工夫が見られた。
- 同じ課題をもちながらも、それを克服している取組を学ぶことができた。
- 他市町村との情報交換ができ、新たな気付きがあった。
- 若い職員が高い能力と意欲をもっていることがわかった。
- 刺激的な講演や事例発表がとてもよかった。
- 管内の枠を超えた交流、研修ができそう。
- 社会教育に何年も携わっている先輩方の話を聞いて学びのあるものになった。

2. 各プログラムについて

<事例発表>

- 様々な地域の取組を聞き、自分たちの地域や施設にも活かせることがあった。
- 似ていると感じる部分も多いが、その分検討段階の事業が他の発表で実践例として紹介されているケースもあり、参考になった。
- 稚内市と清水町の事業についての話がとても参考になった。
- 具体的な事例とその裏側の動きを担当者から直接聞くことができた。
- 自分の町にはない事業を知る機会となり、町に持ち帰りたい事例もあった。
- これから始まる事業のイメージをもてたのでよい収穫だった。
- 事業をどのように実施しているか、どのような工夫をして、どのようなツールを使って取組をしているか聞くことができた。
- 自分で聞きたい管内の事例を選べる方式がよかった。
- 事例が多く参考になった。自町でも参考にできる取組があった。
- ちょうど課題を感じていることに合った事例があったので興味深く聞いた。
- 4つの部屋で同時開催ではなく、全ての発表を見ることができたらもっと学ぶことができた。

<基調講演>

- 「失敗することは挑戦すること」というキーワードが特に心に残った。
- 社会教育以外の講師というのがよかった。他分野の方の話が聞けて新鮮だった。
- 民間の方の意見は面白かった。外からの視点は大切だと思った。視野が広がった。刺激になった。
- 聞くだけでなく、考えて学ぶスタイルは新しく面白かった。
- あまり聞くことができないジャンルの話だったが、社会教育につながるところがたくさんあり勉強になった。
- 「ハッシュタグをつける」が本当に印象的で活用したいと思った。また、自分の考えを展開して見直すことも大事だと感じた。
- ウェルビーイングの解釈がわかりやすかった。
- とても話がおもしろく、参加型なのもよかった。
- 社会教育の観点では、あまり参考にならなかった。

<研究協議>

- 他市町村の社教主事の意見を聞くことで業務につなげることができると思った。
- 普段は会えないような地区の方と会って話げできたことが有意義だった。
- 人口規模が同じくらいの市町村の方と話せて、来年度の事業に生かしたいと思った。
- 新しい考え方に出会えた。新しい視点が生まれ、実践につながる意見交換ができた。
- 自分では思いつかないような意見がたくさんあり、参考になった。
- 各町からアドバイスをもらったので、参考になった。
- 自治体の規模別のグループだったので、共有・共感できるものがたくさんあった。
- 人口規模が近いので共通の課題も多く、各市町村の課題や取組を知ることができ、有用な話し合いができた。
- 時間がなくて、深めることができなかつた。時間にもう少し余裕があるとよかつた。
- 同じ事業担当者や同じ課題をもった人でグループ編成をすると気付きが多くなると思った。
- 1年目なので広く扱ったのかと思うが、2年目以降は絞り込みがあつてもよい。
- 1グループの人数が多かつた。グループの机の間隔も狭かつた。
- 経験年数の近い人同士で協議できるようなグループ編成もあるとよい。
- 自分自身の課題がシェアできるとなるとよかつた。

3. 運営・実施方法について

- ・移動が大変なので、開会式→基調講演→実践発表の順だとよかつた。
- ・移動の時間も含め、時間通りに進行していた。会場の設営、場面転換等もスムーズだった。
- ・2日目の午後まで設定し、研修協議の時間を確保してほしい。
- ・グループワークは毎回発表があるので、今後も設定してほしい。
- ・資料の事前掲載も当日配布もない事例があつた。とても参考になるものだったので欲しい。
- ・事例発表のオンデマンド配信があるとありがたい。

4. その他（感想）

- ・他市町村、社会教育主事、ベテランの意見はとても参考になる。より密な交流を深められる場になればよりよいと思った。管内交流のみではなく、全道交流できるとよい。
- ・各管内で社会教育への力の入り方が違ふと実感した。もっと自分の管内でも切磋琢磨してやりたい。
- ・一人だけでなく、複数の講師の講演を聞きたい。
- ・とても学びのある研修会だった。多くの社会教育関係者と交流でき、次へ活かせるようなヒントをもらった。
- ・昨年も参加したが、気付きがすぐに仕事につながる、モチベーションを上げるよいきっかけになった。
- ・社会教育の事業に参加するのはお客様ではない、地域住民を受け身の存在にしない、自分も楽しいけれど一緒に参加した友達と一緒に楽しめることがそれ以上にうれしい、自分も企画に参加してみたい、それが社会教育事業に最も大切。ITが重要な選択肢となったが、みんなと一緒に話し合い、学ぶことは私たち一人一人の命に関わる大切なもの、それを作り出す社会教育には重要な意義がある。
- ・道内の社会教育主事との交流はとても参考になるので、もっとこういう場がほしい。

5. 成果と課題

<成果>

- 全14管内から各管内のテーマや課題に即した事例発表や新たな視点で社会教育を捉える基調講演は、各地域において社会教育を振興するヒントとなったことがうかがえる。
- 社会教育人材のネットワークの構築にも対面で研修会を開催することは有効であるとする。

<課題>

- 移動に多くの時間を要してしまつたことから、参加者にとって参加しやすいプログラムの構成となるよう、組み立てを検討したい。

<今後に向けて>

- ・研究協議では、経験年数や年齢等にばらつきがあり、話し合いを深めることができなかつたという意見もあつたが、取組の交流がしやすいように人口規模別のグループ編成としたことで、同じ状況の市町村が多く、実感もてる協議内容だったという回答が多数を占めていたことから、今後も研究協議のテーマを明確にしたグループ編成を工夫していきたい。